



ムダ遣い
やめて!!

小さな庁舎で大きな福祉の近江八幡市へ

市民が考える庁舎の会

95億円庁舎の是非を問う住民投票条例を求める署名

18,566人分 / 提出!!

6月5日、小西理、檜山秋彦、福本幸夫の代表請求人は、8,566人分の署名簿を市の選管に提出しました。

5月1日から6月1日までの署名運動は、1,000人を越える市民が、宣伝、署名、カンパ、チラシ配布、炊き出しなどの活動に参加、協力し、空前の規模となりました。

有権者比で13%越える8,566人分の「95億円庁舎の是非を問え」の声は、庁内外に衝撃を与えています。安土、岡山、北里の各学区では有権者比で20%を越えています。

署名運動に初めて参加された皆さんや運動を支えて下さった皆さん、ご声援下さった皆さんに心から感謝を申し上げます。

署名

市長と議会は
庁舎建設見直しの
声に応えよ!



署名8566人分を提出

近江八幡市庁舎整備問う市民団体

近江八幡市が現庁舎計画の是非を問う住民投票案に計画する新庁舎整備に対し、建設費が高額だと反対する市民団体「市民が考える庁舎の会」が5日、住民投票条例制定の直接請求に必要な選挙人名簿登録者数の五十分の一に当たる千二百四十二人（六月一日現在）以上を目指していた。小西理代表は「八千五百六十六人分の署名簿を市選管に提出し、受理された。回会は、市が計画する立体駐車場や解体工事などを含む新庁舎建設工事費八十一億九千五百円は「高額すぎる」として、「今ある施設を有効に活用し、市民病院跡地に新庁舎を建設すれば工事費は五十億円程度になり、しかも平地駐車場を安心して利用できる」などと主張している。五月一日から一月間、市庁舎整備等基本

署名簿を市選管へ提出するメンバー（近江八幡市役所）



中日新聞6日付け

声明 市民が考える庁舎の会

2017年6月5日

2014年11月1日、「住みよい近江八幡市をつくる会」の呼びかけで、「近江八幡市『庁舎建設とまちづくり』」という名の市民シンポジウムが、近江八幡市商工会議所二階ホールにおいて開催されました。この催しを伝えた同年10月10日付けチラシは、「私たちは『庁舎建設は市民が施主』という立場から、大多数の市民が納得できる『庁舎建設とまちづくり』でなければならぬと考えています」と訴えています。

それから丸二年半が経過しました。市当局は既定方針通り、総工費95億円という建設計画をこり押しで進めてきたばかりか、建築請負契約の時期を当初の予定から三ヶ月も早めて、既成事実を積み重ねようとしています。市長はあくまでも市民病院跡地には新庁舎を建設しないとしていますが、市民の圧倒的意見は「市民病院跡地に建てればいいではないか」というものであります。また、現庁舎の三倍もの床面積や、目的のない「賑わい施設」、使いにくい立体駐車場も市民の批判を浴びています。

本日、選挙管理委員会に提出する「近江八幡市庁舎整備基本計画」の是非を問う「住民投票条例制定請求署名は、本市選挙管理委員会の承認の下に5月1日から6月1日まで実施され、私たちの審査による有効署名数は8,566筆、簿冊数にして1,891冊に達しています。署名を集めた受任者数は729名に上がります。

有権者市民の13・2パーセント、地方自治法の定める法定数の6・3倍以上の市民が、自筆で、あるいは法に定められた理由による代筆で、かつ、住所・生年月日を明記、押印して市の進める庁舎建設計画の是非を問う住民投票条例の制定を求めたことはきわめて重大であります。

市当局は、いかなる予断をも排して、速やかに本条例案を議会に諮るとともに、住民投票実施に向けて準備を進められるよう強く求めるものであります。